

社会学演習Ⅱ

科目ナンバリング SEM-302

必修 2単位

中谷 直司

1. 授業の概要(ねらい)

本ゼミは、国際関係論と政治学の枠組を用いて、国際社会と日本の関係を考察することを大きな共通テーマとします。前期に新書の読解・プレゼン・ディスカッションを通じて習得した知識と考え方を踏まえて、後期では、まずもう少し専門的な教科書を使い、国際関係研究・政治学研究についての理解と知見を深めます。その上で、専門の学術誌に掲載された論文の読解とプレゼンに、学生同士の協働と教員の手助けの下で、挑戦します(必ず読めるようになります!)

【教科書について】

政治学の方法論には大きく二つあります。一つは理論的アプローチで、前期から使用する『政治学の第一歩』がそうした方法論にもとづいた教科書の代表例です。もう一つは歴史学的方法論で、後期にはまずその特徴を理解するために『国際関係史の方法』の一部を輪読します(近刊予定のため、第一回目の授業に持参は不要)。その上で、それぞれのアプローチでかかれた学術論文を一篇、いくつかのグループに分かれて読解し、その「新奇性」を説明するプレゼンテーションを作成し、内容について議論します。

2. 授業の到達目標

あなたが実際に読んだ論文が扱っているテーマを中心に――

- (1) 国際関係論／政治学の基本的な「ものの見方」を理解する。
- (2) 国際関係論／政治学の成果(新たな知見)について、説明できるようになる。
- (3) 国際政治学・日本外交分析の課題(まだ明らかにできていないこと)を説明できるようになる。

3. 成績評価の方法および基準

【個人得点】

①グループワークへの貢献度(司会、書記、タイムキーパー、あるいはプレゼンでの活躍など)

＊一部ピア評価(学生間評価)を取り入れる。

②研究ノートの提出回数／内容(クオリティ)／『国際関係史の方法』の発表担当

③計3回のプレゼン報告会で質問した数

【グループ得点】

①プレゼンテーションの完成度(論理性・わかりやすさ、独創性; 時間管理)

＊一部ピア評価(学生間評価)を取り入れる。

②プレゼン報告会で質問された数

4. 教科書・参考文献

教科書

マーク・トラクテンバーク 『国際関係史の方法』(近刊予定) ミネルヴァ書房

参考文献

砂原庸介、稗田健志、多湖淳 『政治学の第一歩』 有斐閣

5. 準備学修の内容

- ・第5回の前に、それぞれ課題文献に目を通し、分からない言葉や重要と思われる箇所をチェックしてくる。
- ・授業時間内の準備作業のほかに、授業時間外での自習・グループワークも一部必要である。

6. その他履修上の注意事項

【取り組み方】

- ・演習であるので、毎回の授業への出席は必須。
- ・ただし座っているだけでは出席と認めないので、毎回必ず1度は発言する(練習と思う)。

【受講要件】

- ・未知のものへの熱意、好奇心。
- ・試行錯誤・遠回りを楽しむ気持ち。

7. 授業内容

【第1回】 自己紹介／演習の進め方と目的の説明／学術論文リストの配付とグループ分け

【第2回】 『国際関係史の方法』の輪読1――第2・3章を中心に

【第3回】 『国際関係史の方法』の輪読2――第4・5章を中心に

【第4回】 『国際関係史の方法』の輪読3――第6・7章を中心に

【第5回】 論文を読んでみる1――その論文のテーマは何か／キーワードは何か

【第6回】 論文を読んでみる2――何が新しいのか1――教科書・参考書を見える

【第7回】 論文を読んでみる3――何が新しいのか2――先行研究にあたってみる

【第8回】 中間報告(各グループ7分、担当者が机を回る)

【第9回】 最終報告を準備する

【第10回】 第1回予行演習

【第11回】 第2回予行演習

【第12回】 第3回予行演習

【第13回】 第1回プレゼンテーション

【第14回】 第2回プレゼンテーション

【第15回】 第3回プレゼンテーション